



Title	スウェーデン語の情報が得られる電子媒体：辞書を中心に
Author(s)	清水, 育男
Citation	IDUN -北欧研究-. 2013, 20, p. 181-198
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/95528
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

スウェーデン語の情報が得られる電子媒体

— 辞書を中心に —

清水 育男

1. はじめに

学術文献探索に関して、一昔前までは考えられなかった現象が今日起きている。インターネットやCD-ROMをはじめとするさまざまな電子媒体の普及である。短所もあろうが、ある意味、革新的な情報探索方法である。これは基本的にすべての分野において欲する情報がいつでもそしてどこにいても瞬時に入手できるということである。ただ、情報の質に関しての保証まで与えられているというわけではない。この世界にはきわめて多彩な情報が溢れており、それをどう取捨選択するのかは入手者側の判断に任されている。この豊富な情報が入手できるということは、スウェーデン語学の分野にも言えるが、情報の質はここでも玉石混交であり、少しでも信頼できるものを提示しようと試みる役割はスウェーデン語学教育に携わる者にあるのではないかと思われる。筆者自身特に電子媒体に精通しているわけではないので、いやむしろ疎いので思わぬ間違いも、また重要な情報を見逃している恐れも十分にあることを知りつつ、以上の出発点から、ここで役に立つと思われる、かつ信頼のおける各種のサイトを挙げながら、その使い方などを示そうと思う。特にインターネットの世界は今では情報源は無限に近く、ここに挙げるもの以外にも有益な情報は多々ある可能性は指摘した通りだが、一方でせっかく素晴らしいサイトがありながらも、数年後には消滅してしまっている可能性もあろう。この点やや不安定な点があるのもこの世界の特徴である。

ここでは焦点をスウェーデン語学習、スウェーデン語学に絞り、かつその目的にかなうような有益で、内容的に信頼度の高いものを挙げて行くが、段階として、スウェーデン語入門編、辞書編、その他と分けてみることにする。また、第一義的に使用料が無料のものを示し、部分的には有料のものも含まれることがあることも予め述べておきたい。また最後の章では、なぜこれらは無料で閲覧できるのかも、これらのサイトの意義から大局的に考えてみたい。

2. サイトから利用できるスウェーデン語入門教材

2010年度に本学の旧世界言語研究センターの入門教材シリーズのプロジェクトの一環としてとして完成させたスウェーデン語教材『スウェーデン語へようこ

そ』(清水他：2010)を挙げたい。「序章」,「文字と発音」,「個別学習 12 課分」,「学習の助けに」に分け、各課にはスキット、文法解説、練習問題、文化・音楽などを取り入れ、スウェーデン語の基礎習得を目指すものである。作成に携わった当事者として、本教材の特徴を述べるとするならば、発音に重点を置き、とりわけスウェーデン語の母音の発音習得、すなわち聞き取りと、自らいかに調音すべきかという双方に注意を払った点である。スウェーデン語と日本語の母音の間には調音はもとより聴覚印象においてもまずまったく同等といえるものはないが、そのなかでも特に日本語には明らかに相当する母音がない y, ö, ä と長母音 a を中心にし、日本人には聴覚的に類似して聞こえる母音 (y/i, ö/u, ä/e, o/å) の違いを聞き分けられるように工夫した。さらに、すべての母音を発音する際に、スウェーデン人のインフォーマントの唇の動きや形を正面からだけではなく、側面からも同時に動画にして収録し、立体的に調音の仕方が見えるようにしてある。

また日本語の母音 a, e, i はそれぞれ舌の位置を少しずつ前方に上昇させることによって得られるが、a, e の間に位置する日本語にはない [æ], [ɛ] などの母音は机上で理論的に理解はできても、正確に聞き分け、これらの母音を誤解されことなく再現するためには、調音時の唇の形を視覚的にも、聴覚的にも把握できるように各母音の音色を舌の位置を順次 [a] → [æ] → [ɛ] → [e] → [i] に移動させながら発音してもらい、その都度唇の形の変化を画像で見ながら、微妙な母音の違いを確認し、聞き取るようにしてある。

また無声子音 p, t, k は英語もそうであるが、帯気音を伴うという特徴がある。その帯気音も、インフォーマントの口の前に薄い紙をあてがい、これらの子音を発音すると大きく揺れるという現象を目に見える形で映像で示してある(ちなみに、p, t, k の中で、k 音を発音するとき紙の揺れが最も少なかったことは印象的であった.)。一方、sp-, st-, sk- の中に含まれる p, t, k は帯気音を伴わないことも実際の映像で示している。日本語の p, t, k は帯気音を伴わないため、スウェーデン語のものと帯気音のない b, d, g と誤解してしまうというスウェーデン人からの意見にも配慮した結果である。

母音、子音のこうした微妙でありながらも、きわめて重要な特徴を浮き彫りにできるのは、画像が容易に、しかも個人のペースによっていつでも何度でも反復できる画像の配信システムがあつてはじめて実現できる。その意味で、紙媒体や単なる音声教材とは別の次元の教材と言えよう。

その他にも「学習の助けに」において、名詞、形容詞、数詞、動詞の屈折など一連の変化表をほぼ網羅して音声にして吹き込んであるような、カバー範囲の広い教材はおそらく本教材をおいて他にはないであろう。

この教材のサイトアドレスは以下のとおりであるが、Google に「独習スウェー

デン語」と入力して探索すればすぐに見つかるであろう。もちろん無料である。

<http://el.minoh.osaka-u.ac.jp/flc/swe/index.html>

3. サイトから利用できるスウェーデン語関係の辞書

インターネットで利用できるスウェーデン語関係の辞書は、質の良し悪しを別にすればかなりの数に昇ると思われる。ここでは信頼できる辞書に絞って述べることにする。

3.1. Svenska Akademien のサイトから

3.1.1. SAOL

まずは、SAOL (= *Svenska Akademiens ordlista*) がある。SAOL は 1874 年からこれまでに版を重ねてきて最新の 2006 年で第 13 版となる。サイトアドレスは以下の通りである。

http://www.svenskaakademien.se/svenska_spraket/svenska_akademiens_ordlista/saol_pa_natet/ordlista

スウェーデン語の SAOL をそのまま正確に日本語訳にすれば、“語彙リスト”というようなことになり、実際基本的にはリストであるため、辞書とは言い難い。しかし、これを用いてたとえば、ある名詞を検索するとその共性・中性の区別、単数・未知形、単数・既知形、そして複数形があれば複数・未知形、複数・既知形が示され、さらにそれらの属格も記載されている。形容詞については、単数・共性、単数・中性、複数、既知形、そして比較級・最上級、時には反対語が記されていることもある。動詞は不定詞、現在形、過去形、完了分詞、そしてそれらの s-受動態、さらには命令形、現在分詞、過去分詞（共性、中性、複数ならびに既知形）も記載されている。意味は原則示されていないが、同音異義語の場合は、スウェーデン語の例文を示すことにより、意味の違いがわかるようになっていく。SAOL は今まで紙媒体で使用してきた経験があるが、各語形がべったらに横に並べられているだけで、しかも意味の記載もないため、ただ単に屈折形を知るのなら、意味の記載もある普通のスウェーデン語辞典で調べる方がはるかに効率よかった。外国人学習者はその重要性は一応認めてはいたが、意味や用法の情報がない SAOL の使用用途はほとんどゼロに近かった。しかし、ここに来て、ネット上では紙幅の制限がないためか、スペースをふんだんに使い、語形の配列がきわめて見やすく整理されており、クリック一つで全体像が一目瞭然となる。これにより今まで等閑視されてきた SAOL の意義が一気に再認識され、たとえばスウェーデン語の初級学習段階から学ばなければならない名詞の 4 形（単数・未知形、単数・既知形、複数・未知形、複数・既知形）など、その都度クリックす

れば、即必要な語形を確認でき、学習段階で抱く語形上の疑問点はたいてい解決できるなど、大いに役に立つことが改めて判明した。しかも、取り上げられている項目は 125,000 語あり、この“語彙リスト”が無料でダウンロードができるために、今では初級から専門段階に至るまできわめて有効なツールになったと言える。本サイトはスウェーデン国の Svenska Akademien〈スウェーデン・アカデミー〉がバックアップしており、スウェーデン語の規範の一面を担っている責任もあり、内容も十分信頼できる。

3.1.2. SAOB

SAOB は Svenska Akademiens Ordbok の略号で、スウェーデンでは一般にその頭文字をとって「エスアオベー」と言われている、この辞書の背景などについては、石井米雄編 (2008:378-382) に詳しく述べてあるので、まずはそちらを参照していただきたい。取り上げられているスウェーデン語は 1521 年から現在までである。1888 年から刊行され始め、現在もまだ編纂が続けられ、目下 tyna まで到達している。当初の予定ではスウェーデン・アカデミー創立 200 年記念にあたる 1986 年の完成を目指していたが、資料の増加と説明の詳細化のために、完成予定は大幅にずれ込み、1980 年代半ばには完成見込みは今度は 2045 年と修正された。しかし、コンピュータ導入と質の維持を図りつつも解説の縮小化を図ることで、目下の完成予定は 2017 年に設定されている。サイトのアドレスは下記の通りである。

<http://g3.spraakdata.gu.se/saob/>

使い方はきわめてシンプルで、[Uppslagsord]〈検索語〉のボックスに検索する語彙を入力し、[Slå upp]〈検索開始〉をクリックするだけである。ただ、たとえば ligga〈横になっている〉など基本語を入力すると意味項目が莫大な数に昇り、その詳しさに圧倒される。英語の大辞典 OED (= *Oxford English Dictionary*) などよりも、はるかに詳細で情報量が多いことは、一見すればすぐにわかる。しかも、無料で誰にでも公開されている。SAOB 編纂の意図ならびに経緯は本誌本号 Ralph (2012) ならびに本稿第 6 章にも記載されているので参照されたい。

問題は検索した画面に出てきた項目をどう読むかである。これに関しては、清水 (1998) に解説を付したので、それを参照して頂きたいが、少なくとも SAOB の発音記号などをどう読み取るのかはわかりにくいと思われるので、その部分のみ要約にして以下に示す (清水 1998 : 105-107)。

SAOB の発音表記は現行の発音表記、たとえば Hedelin (1997) や清水 (2002) とは異なり、混同や誤解しやすい記号もあり、その相違点は常に気をつけなければならない。SAOB の発音表示方式は、① 母音の強勢の位置、② 主強勢のある母音の長短、③ 語アクセント (tonaccent, いわゆるアクセント I, アクセント II)

の区別, これら3点を4～0の数字を使い発音表記の中に組み込んで同時に示している。4もしくは3は主強勢を, 2もしくは1は副強勢を, 0は弱強勢を表す。そして4が付されていればアクセントⅠ, 3と2がセットで付されていればアクセントⅡである。主強勢を表す4もしくは3が, 母音の直後に記されていれば, その母音に主強勢がありかつ長母音である。一方これらの数字が子音の直後に付されていれば, その子音は長子音であり, その直前の音節に主強勢があり, その母音は短母音である。例を挙げる。

SAOB	現行の発音記号	意味
hat [ha ⁴ t]	= [ˈhɑ:t]	〈憎しみ〉
hatt [hat ⁴]	= [ˈhɑ:t]	〈帽子〉
anden [an ⁴ den]	= [ˈanden]	(and〈アヒル〉)の単数・既知形
anden [an ³ den ²]	= [anden]	(ande〈霊〉)の単数・既知形

まずSAOBの発音表記と現行の発音表記とでは a と ɑ が反対に用いられていることに注意する必要がある。また, SAOBの発音表記は実際には斜字体で書かれており, [] で包まれていない。現行の発音表記 [ˈ] [ˌ] はそれぞれアクセントⅠ, アクセントⅡを表すが, 通例単音節語はアクセントⅠであるため, 何も付さないが, ここでは説明のわかりやすさを優先して [ˈ] を付加した。

まとめると, 4もしくは3の数字の位置が母音の直後か子音の直後かによって, その母音の長短が判明し, 発音表記に数字4が振られていれば, その語はアクセントⅠ, 数字3と2が同一発音表記内に現れれば, その語はアクセントⅡを有しているということになる。

さらにSAOBには独特の省略記号や省略文字が使われているが, その一覧表は以下のサイトにあるので, 活用されたい。

<http://www.saob.se/wp-content/uploads/2013/01/f%C3%B6rkortningar.pdf>

なお, SAOBの成立史や手引きについては Ekbo & Loman (1971), Lundblad (1992) に詳しい。

3.2. Runeberg Projekt に掲載されている辞書

このサイトにはすでに著作権が切れ, 現在では入手が困難で, かつ今でも有益な北欧語の文献をその内容がそのまま読める形で掲載している。しかもありがたいことに, 毎年毎年その掲載文献が少しずつ増えていることである。スウェーデン語の文献に限らず, デンマーク語, ノルウェー語, フィンランド語の文献などもあるが, 圧倒的にスウェーデン語の文献が多いのが特徴である。挙げられている文献のタイトルの右端に各国の国旗がカラーで記されているので, 何語で書かれた文献であるか, 即わかるようになっている。

<http://runeberg.org/>

その掲載文献の全体像は下記のカatalogのサイトから見る事ができる。

<http://runeberg.org/katalog.html>

このCatalogにどんな辞書やスウェーデン語学関係の文献が掲載されているのかを以下に列挙しよう。多くは古くなってしまっているものもあるが、なかには出版年代が比較的新しいものもあるので、一概には見過ごせない。

3.2.1. 辞書を中心に

スウェーデン語関係

Collinder, Björn. 1992. *Nya ordhandboken*.

Hellquist, Elof. 1922. *Svensk etymologisk ordbok*.

(本語源辞典は第3版(1966)も出ているが、内容は基本的にあまり変わっていない。1922版には巻末に *ordbildning* 〈語形成〉についての優れた解説が付されており、その意味でむしろこの版のほうが学術的価値が高い。)

Rietz, Johan Ernst. 1862-1867. *Svenskt dialektlexikon: ordbok öfver svenska allmoge språket*.

(現在でもスウェーデン語方言については頻繁に引用される辞書である。)

Sahlgren, Jöran. 1979. *Svenska ortnamn med uttalsuppgifter*.

(地名の発音の情報は今でも少ないので、項目は少ないながらも役に立つ。)

Svenska Akademiens ordlista. 1-3版(1874-1883), 6版(1889), 7版(1900), 8版(1923), 9版(1950), 10版(1973), 11版(1986)。

(ほとんどの旧版がこうして入手できるために、ここ百年のスウェーデン語の語彙の変遷や盛衰を追うのに役立つであろう。)

Östergren, Olof. 1957. *Våra vanligaste främmande ord*.

ノルウェー語関係

Beckman, Nat. 1970. *Norsk-svensk ordbok för bokmål och nynorska*.

Wessén, E. 1947. *Norsk-svensk ordlista*.

デンマーク語関係

Jessen, Edwin. 1893. *Dansk etymologisk Ordbog*.

英語関係

Kärre, Karl, Harald Lindqvist, Ruben Nöjd och Mats Redin. 1948. *Engelsk-svensk ordbok: skolutplaga*.

Montgomery, Albert. 1914. *Svensk-engelsk ordbok*.

Öman, V. F. 1872. *Svensk-engelsk hand-ordbok*.

ドイツ語関係

- Auerbach, Carl. 1928. *Svensk-tysk ordbok*.
Auerbach, Carl, J. Holmberg & H. Reutercrona. 1932. *Tysk-svensk ordbok*.
Hoppe, Otto. 1914. *Svensk-tysk ordbok: skolupplaga*.
Hoppe, Otto. 1919. *Svensk-tysk ordbok*.
Hoppe, Otto. 1920. *Tysk-svensk ordbok: skolupplaga*.
Klint, A. 1915. *Svensk-tysk ordbok*.
Rosenberger, G. & Carl Auerbach. 1956. *Tysk-svensk ordbok*.

フランス語関係

- Hammar, Thekla. 1964. *Svensk-fransk ordbok*.
Schluthess, Fredinand. 1922. *Svensk-fransk ordbok*.
Vising, Johan. 1963. *Fransk-svensk ordbok*.

スペイン語関係

- Esselte studium. 1978. *Spansk-svensk ordbok*.

ロシア語関係

- Lerche, Fr. 1896. *Rysk-svensk ordbok*.

ラテン語関係

- Cavallin, Christian. 1875-1876. *Swensk-Latinsk Ordbok*.

ギリシア語関係

- Linder, Carl Wilhelm. 1862. *Svenskt-grekiskt lexikon*.

フィンランド語関係

- Genetz, Arvid. 1887. *Svensk-finsk ordbok*.
Söderström Osaakeyhtiö, Werner. 1960. *Svensk-finsk ordbok*.

エストニア語関係

- Wieselgren, Per & Paul Ariste Gustav Suits. 1976. *Svensk-estnisk ordbok*.

百科事典

- Nordisk familjebok. Konversationslexikon och realencyklopedi.*

Första utgåva. 1876-1899.

Uggleupplagan. 1904-1926.

(この百科辞典の Uggleupplagan 版は現在入手できるスウェーデンの Nationalencyklopedin よりも量的にははるかに詳しい。1926 年以前の人物などについて調べるときには、大いに役にたつ。これを含む、それ以外のスウェーデンの百科事典については石井編 (2008 : 384) を参照。)

- Hofberg, Herman. 1906. *Svenskt biografiskt Handlexikon*.

スウェーデン語学関係

研究雑誌

Antiquarisk tidskrift. 1843-1863, 1864-1924.

Arkiv för nordisk filologi. 1883-1908, vol. 1-24.

(通例 ANF と略称され、今日でも途切れることなく刊行されている、ノルド語学にとっては必須の研究誌。特にこの 1880-1910 年代は Axel Kock や Adolf Noreen が活躍し、歴史比較言語学のノルド語界での成果が次々に本誌に発表されているため、きわめて貴重な文献である。)

Tidskrift för Philologie og Pædagogik. 1860-1873

モノグラフィー

Brate, Erik. 1900. *Sveriges runinskrifter*. Första bandet. *Ölands runinskrifter*.

(スウェーデン全土のルーン碑文をすべて収集したシリーズの第 1 巻目。今後 2 巻目以降も掲載されることを期待している。)

Brate, Erik. 1922. *Sveriges runinskrifter*.

Cederschöld, Gustaf. 1893. *Döda ord – Några anteckningar och reflexioner*.

1894. *Om de senast framställda fordringarna på en historisk ordbok*.

1897. *Om svenskan som skriftspråk*.

1910. *Om ordlekar*.

1922. *Om kvinnospråk och andra ämnen*.

Freudenthal, A.O. 1895. *Östgöotalagen med förklaringar*.

Hellquist, Elof. 1902. *Studier i 1600-talets svenska*.

Kock, Axel. 1879. *Om några atona*.

Ljungstedt, Karl. 1899. *Språkets lif, inledning till den jämförande språkvetenskapen*.

Tamm, Fredrik August. 1878. *Tränne tyska ändelser i svenskan*.

1881. *Svenska ord belysta genom Slaviska och Baltiska språken*.

1897. *Om ändelser hos verb och arkaiskt bildade prepositionsuttryck i svenskan/
Om avledningsändelser hos svenska adjektiv/
Om avledningsändelser hos svenska substantiv*.

1901. *Granskning av svenska ord. Etymologiska ock formhistoriska studier*.

(Kock の *Om några atona* に並んでスウェーデン語史に大きく貢献した Tamm の入手困難な文献が掲載されていることへの驚きと、当サイトの選択力の確かさに敬意を表したいほどである。)

Thomsen, Vilhelm. 1882. *Ryska rikets grundläggande genom Skandinavien*.

Vendell, Herman. 1894. *Terminologin i äldre Västgöta- och Östgöotalagarne*.

この Projekt Runeberg に掲載されている文献は語学関係に留まらず、文学、社会

など広範囲にわたっており、今後ますます利用率が高まるものと期待される。スウェーデン語に限らず、デンマーク語、ノルウェー語に関心のある人にとっても、必ずや得るところがあるものと思われる。今後関心を払っていかなくてはならないサイトであることは間違いない。

3. 3. Fornsvensk lexikalisk databas のサイトから

3. 3. 1. 古スウェーデン語の辞典

3. 2. の SAOB の箇所では、当辞典の対象とするスウェーデン語の資料は 1521 年から現在までと述べた。それ以前のスウェーデン語についても調べる必要が生じたときには、以下のような辞書がかねてから存在している。

前期・古スウェーデン語

Carl Johan Schlyter. *Ordbok till Samlingen af Sweiges Gamla Lagar*. 1877. Lund

後期・古スウェーデン語

Knut Fredrik Söderwall. *Ordbok öfver Svenska Medeltids-språket*. 1884-1918. *Supplement* 1953-1973. Berlingska, Lund.

前者の辞書は前期・古スウェーデン語（äldre fornsvenska. 1225 年頃～1375 年頃）から写本に残された地方法のスウェーデン語の語彙について、後者は後期・古スウェーデン語（yngre fornsvenska. 1375 年頃～1526 年）の語彙を収集した辞典である。両者の辞書の特徴や意義については清水（1998：104-105）ならびに石井編（2008：379-38）で述べているので、ここではあえて触れないが、これら両辞典も現在、以下のサイトから無料で使用できるようになった。これにより、新スウェーデン語（nysvenska. 1526 年から現在に至る）を対象とする SAOB と連結し、ルーン・スウェーデン語（runsvenska. 800 年頃～1225 年頃）を除くスウェーデン語史すべてのスウェーデン語をネット上の辞書でカバーするに至ったことは今後のスウェーデン語史研究発展の上で大きな意味がある。これら 3 大辞典が、いつでも自由に、そして無料で使える意義とありがたさはいくら強調しても、し過ぎることではない。

Fornsvensk lexikalisk databas

<http://spraakbanken.gu.se/fsvldb/>

3. 4. Språkbanken のサイトから

このサイトには種々の辞書へのリンクが張られている。4 章でも解説を加えるが、このサイトは辞書に限っているわけではないが、ここでは学習用のスウェーデン語・スウェーデン語辞書が掲載されているので以下に挙げる。これはスウェーデン語・スウェーデン語辞典のため説明は当然スウェーデン語であり、例文の訳

も挙げられていない。また収録語数も多くはないが、発音表記があり、説明のスウェーデン語が易しくわかりやすく、例文も適切なものが選択されていることが大きなメリットといえる。なお、動詞は不定詞ではなく、現在形で検索する。

Lexin: Svenska ord. Språklexikon för invandrare.

<http://spraakbanken.gu.se/lexin/>

さらに、1800年代のスウェーデン語を知る上で、しかも現代スウェーデン語と直結する下記の辞典も完成した。これで上で言及した3大辞典の他にこの重要な辞典がサイトに加わり、スウェーデン語学にとってはさらに大きな進歩となることは間違いない。

Dalin, Anders Fredrik. *Ordbok öfver svenska språket*. Vol I-II. 1850-1853. Stockholm.

3.5. Språkrådet のサイトから

このサイトにある Lexin は上記のものと基本的に内容は同じであるが、外国語への対訳が付されている。英語対訳版は現在改訂中で使用できないが、その他の対訳言語はかなり特殊な言語に限定されており、スウェーデンに移民してきた外国人の便宜を図っているという意図が窺われる。日本語対訳版はもちろんない。

<http://lexin2.nada.kth.se/lexin/>

3.6. ISLEX-projekt のサイトから

本サイトとその利用法については、本誌本号の Hannesdóttir (2012) の論考を参照。北欧4カ国の研究機関による共同作業で完成したもので、アイスランド語が軸語になり、デンマーク語、ノルウェー語 (bokmål と nynorsk)、スウェーデン語への対応語が載せられている。例文は載せられていないが、大陸のノルド諸語からアイスランド語を調べることもできる。ノルド語相互間の単語の位置づけを知るには信頼のおける最高のツールである。

<http://islex.lexis.hi.is/islex/se>

3.7. アプリケーションから使用できるスウェーデン語関係の辞書

最近ではネットに限らず、iPad、iPhone などの電子端末タブレットやスマートフォンからもスウェーデン語の辞書を利用できる。いわゆるアプリケーション（以後、アプリと略称する）をインストールして、使用するというケースである。この場合、無料のものと有料のものがあり、有料なものは数十円から数千円のものまで膨大な数があるので、購入に際しては「詳細情報」欄をみて内容を慎重に吟味する必要がある。アプリで利用できる辞書は前節にまで挙げた諸辞書とは別物で（SAOL はアプリとしても無料で使用可）を除けば、こちらはこちらでまた

別の辞書の世界が広がっているという感じである。

筆者の知らないスウェーデン語辞書関係のアプリも多々あるものと思われるが、個人的に使用して役に立つと思われる辞書を挙げる。

3.7.1. スウェーデン語対訳辞典

スウェーデン語 ⇄ 英語辞典

Norstedts engelska ordbok Pro. (見出し語 276.000 語)

スウェーデン語 ⇄ デンマーク語辞典

Gyldendals Svensk Ordbog. (見出し語 60.000 語)

スウェーデン語 ⇄ ドイツ語辞典

Norstedts stora tyska ordbok. (見出し語 140.000 語)

Langenscheidts Standard Schwedisch-Deutsch Wörterbuch. (見出し語 64.000 語)

スウェーデン語 ⇄ フランス語辞典

Norstedts stora franska ordbok. (見出し語 142.000 語)

スウェーデン語 ⇄ イタリア語辞典

Norstedts stora italienska ordbok. (見出し語 111.000 語)

スウェーデン語 ⇄ スペイン語辞典

Norstedts stora spanska ordbok. (見出し語 130.000 語)

スウェーデン語 ⇄ ロシア語辞典

Norstedts stora ryska ordbok. (見出し語 144.000 語)

中国語辞典 ⇒ スウェーデン語

Norstedts kinesisk-svenska ordbok. (見出し語 58.000 語)

これらの辞書は長年、紙媒体で刊行されてきた実績のある辞書で、特に英語との対訳辞書は現在スウェーデンでは最大のもので、内容的にも信頼がおける。Norstedts のドイツ語、フランス語、イタリア語、スペイン語は ⇄ で示したように二つの言語が抱き合わせになっているため双方から検索できるが、中国語の辞書のみ中国語からスウェーデン語への一方通行である。

ところで、スウェーデン語 ⇄ ロシア語辞典 (*Norstedts stora ryska ordbok*) にはスウェーデン語の見出し語すべてに発音表記が付せられて、きわめて便利である。その発音表記は Garlén (2003) の発音辞典をそのまま転用している。また、Langenscheidts のスウェーデン語 ⇄ ドイツ語辞典のスウェーデン語編のスウェーデン語の見出し語にも発音表記が付されているが、こちらの発音記号は Hedelin (1997) や清水 (2002) とほぼ同じものが使用されているために、こちらの方がなじみやすいかもしれない。

これらの Norstedts のシリーズの対訳辞典にはさらに "fick-" が付された廉価な

ポケット版もあるが、語彙数も少なく、用例にも限界があり、あまりお勧めできない。

3.7.2. スウェーデン語・スウェーデン語辞典

Norstedts のアプリのシリーズにはさらに、スウェーデン語・スウェーデン語辞典 *Norstedts stora svenska ordbok* もある。これは NEO (= *Nationalencyklopedins ordbok*. 2004) の前身であるため、語源や語彙の初出年代が掲載されていないのが残念であるが、それを別にすれば、スウェーデン語による見出し語の説明や例文などは的確で明快である。NEO にはかつて紙媒体の他に CD-ROM も販売されていたのだが、今では CD-ROM はもちろん紙媒体も絶版である。しかし、ネットでは一定の契約期間は有料で利用できるようである。しかし現在では NEO に代わり、熟語や新たな説明を加えてさらに充実させた *Svensk ordbok* (2巻本) が 2009 年に Svenska Akademien から紙媒体で刊行された。現在では新しい情報がふんだんに詰まったこの辞書に使用の軸が移行しつつあるが、残念なことに、CD-ROM もなければサイト上でもまだ利用ができない。

Norstedts stora svenska ordbok. (見出し語 100.000 語)

この辞書には上記と同様 ”fick-” (ポケット版) もある。

Norstedts svenska fickordbok. (見出し語 18.000 語)

”fick-” であるため、前者の辞書に比べて収録語数が少ないのはやむをえないが、例文は少ないながらも適切なものを挙げ、そして見出し語には発音表記 (Garlén (2003) の発音辞典からの転用) が付されている点に特徴がある。

3.7.3. スウェーデン語の音声が見られる辞典

Lexin. Synonymer & lexikon.

例文もほぼ同じであることから、3.5. で紹介した *Lexin* に音声などを加えてさらに充実させたものと思われる。収録語数は不明だが、見出し語にはスウェーデン語の音声が付され、クリックするとその発音を聞くことができる。本辞典独特の発音記号ではあるが、すべての見出し語に発音表記が付されている。名詞や形容詞の曲用、動詞の活用形、構文の情報も示されている。

Audio Collins Mini Gem English-Swedish & Swedish-English Dictionary.

(見出し語 10.000 語)

Collins シリーズはこれ以外の言語も多々あり、上記はスウェーデン語と英語のコンビネーションだが、探せばスウェーデン語とフィンランド語やデンマーク語、ノルウェー語などとの抱き合わせもある。両言語の見出し語の語彙にそれぞれの言語で音声が付してある。意味の記述は一切ないが、実際の発音を確認するとき

は大いに役に立つ。

3.7.4. 特殊な辞典

アプリで2点ほどスウェーデン語による特殊な辞典があったので、紹介しておきたい。

Norstedts juridiska ordbok —från A till Ö—. (見出し語数不明)

Medicinsk ordbok. (Belfrage Förlag AB) (見出し語 10.000 語)

前者は法律用語辞典、後者は医学用語辞典。内容をコメントできる立場にはないが、簡潔な説明が与えられているように思える。

語学関係に限らず、他のさまざまな分野においてスウェーデン語で書かれた重要な文献のアプリが多々あることは間違いないであろう。

アプリを用いるこの世界は、利便性からみても、またスウェーデンでもスマートフォンが広く普及していることから考えると、今後さらに拡大発展し、外国語学習分野においても興味深いアプリの数が増大してゆくものと思われ、注視していく必要があろう。

4. 再度 Språkbanken のサイトから — 語法や頻度数のチェック —

このサイトはその冒頭の紹介によると、スウェーデン語の資料 (korpus <コーパス>) を収集、整理して研究者はもちろん一般の人々も利用しやすいような形で提供する任務のもとに 1975 年に国から Göteborgs universitet (= GU) 大学に設置されたものである。その当時の責任者にコンピュータ言語学で優れた業績を挙げている GU 大学の Sture Allén 教授が就任し、今もなおその責を担っている。扱われるスウェーデン語資料のメインは現代スウェーデン語であるが、ゆくゆくはスウェーデン語史の資料も射程範囲に入れている。

<http://spraakbanken.gu.se/>

このサイトの中でもっとも使い道が広く、スウェーデン語研究にとって欠かせないツールが Korp である (korp はロゴから推察できるようにスウェーデン語では <ワタリガラス, カラス> の意味であるが、おそらく korpus <コーパス> の連想から名づけられたものと思われる。生物の名称という共通性をそのまま残存させつつ korp の母音を変えて韻を踏ませた別のデータのツール名 karp <鯉> もある)。

<http://spraakbanken.gu.se/korp/>

さて、このサイトの使用方法であるが、そのマニュアルは以下のサイトに詳細な説明がなされている。

<http://spraakbanken.gu.se/swe/forskning/infrastruktur/korp/anvandarhandledning>

しかし、実際にはかなり煩雑に思えるため、別に動画が用意されており、必見

である。説明はスウェーデン語で講義形式で行われているが、検索を目の前でデモンストレーションしている画像を追ってゆけば、使い方は把握できよう。

<http://media.hum.gu.se/filmer/svenska/korp/rev3.mp4>

ここにある [enkel] <簡易検索> を検索エンジンに使うと、ある単語（品詞も予め指定できる）の頻度やその語が用いられるテキスト環境を調べることができる。その単語を検索するにあたり、一番上の欄の [101 korpusar valda] <101 コーパス選択> でどのコーパス（スウェーデン語資料、たとえば新聞か小説か、何年発行の新聞か）を検索対象にするのかをまず選択し検索を開始すると、その単語を含むテキストが [KWIC] (= keyword in context) 欄に出てくれば、その画面右端の欄でそのテキストの出典を確認できる。またその単語を含む用例がいくつか出てくるかは [statistik] <統計> を開くことによって、名詞であれば、その未知形、既知形、単数形、複数形、属格などの頻度数が示される。動詞であれば、能動態、s-受動態、それらの不定詞、現在形、過去形、完了分詞、命令形など、それぞれの頻度数も百分率を伴って示される。[ordbild] <単語構成> で検索をすると、その当該単語の前後で使われている語（句）もチェックできる。検索語が動詞であれば、主語にはどのような語が来るのか、目的語にはどのような語が来るのか、副詞には何が出てくるのか等、それらの語が頻度数順に示される。

調査対象とするコーパスの資料を決めたうえで、そのコーパスの発行年代をたとえば 2004 年から連続的に現在に一番近い時点にまで設定し、[utökad] <拡張検索> の検索エンジンで調べると、ある新語がいつから、どのくらいの規模（頻度数）でそのコーパスで使用され始めたのかも確認できる。つまり、ある語の使用出現時点を突き止めることもできたり、その語の歴史的な浮き沈みも追うことができる。このように共時的な使用目的にとどまらず、通時的な事実を調査するときにも有効である。この Korp には各自の調査目的に合わせて検索を工夫すれば、他にもいろいろな使い方があるかとも思われる。

さらに, publikationer の項には, GU で 1998 年から発行されているスウェーデン語学関係の多数の論文タイトルが掲載されており, そのレジメや一部にはその全部も読むことができる。

このサイトは今まで上で紹介してきた辞書関係の静的なサイトとは違い, 利用者の意図に合わせて活用法が異なる, いわば動的なサイトと位置付けることができる。その利用方法や効果は利用者の工夫や目的によって大きな広がりを持つてくる。知りたいスウェーデン語の単語の用法などが, 統計に基づいた手堅い結果が示されるため各自の調査, 研究にとって強力な礎になりうる。本サイトはきわめて重要で, 使い道の広い手段を提供してくれている。今後この威力は, スウェーデン語学の様々な研究分野において大きな発展を促すことであろう。

5. まとめ

語学教材、辞書などが紙媒体からネットに移りつつある今日でも、紙媒体の意義が失われたわけでは決していない。また、今後すべてが電子媒体に移行するとも思えない。しかし、この5、6年を振り返ってみると、日本に比べて、スウェーデンのほうが電子媒体移行の流れが早く強いように思われる。英和辞典など辞書のCD-ROMは今でも日本では流通しているが、スウェーデンでは辞書のCD-ROMの販売はもうほぼ消滅している。非常に便利であった辞書のCD-ROMを5、6年も前からもうすでに絶版にしていたのは、今日のこのようなネット上の辞書の利用をすでに将来計画の中に描いていたものと思うと、あのような絶版措置は十分納得がゆく。

ちなみに、スウェーデンには日本で普及しているような携帯用の外国語・自国語対訳電子辞書は存在しない。スウェーデン語にもあれば便利だと思う反面、ネット機能がこれだけ発展してくると、ネットに載せた辞書が問題なく十二分に機能していることから見て、日本の電子辞書の存在意義も今後薄れてゆく可能性が大きくなるかもしれない。スウェーデンに限らず、欧米諸国で電子辞書の有効性や製作に注意がさほど向けられなかったのは、ネットの今日のような発達や利用状況をすでに見越していたのではないだろうかと思える。

今までの紙媒体では補助資料に留まっていた音声教材がこうしたネットを通じてその場で即容易に利用できるようになったことはある意味、革命的でさえある。辞書の各見出し語やフレーズに音声が付され、ときにはその場に適した画像や音声も加わり、しかもそれを即座に何度も聞くことができる、などいうことは10年ほど前までは考えられなかったことである。語学教材が視覚、聴覚まで取り込んで立体的になり、目覚ましい進歩をし続けていることに間違いはない。残された問題は語学学習において、それに見合うだけの効果が認められるかどうかに尽きてくる。今後はその追跡調査が必要になるであろう。

また、研究面においても対象単語の頻度数調査や周辺コンテキストのチェックなどはコンピュータの日進月歩の進歩なくしてはありえなかったであろうし、この面でも研究の成果が期待される。

6. 考察

最後に、スウェーデンではネット上に掲載されている、利用価値のきわめて高いSAOL, SAOB, Korpなどのサイトが無料で一般に公開されている理由は一体どこにあるのであろうかという疑問が湧いてくる。国民の税金を投入して作成されたものであるから、一般向けに無料開放するのは当然と言えば当然のことなのだが、理由はそんなに単純なものではなく、もっと深く、長い歴史に鑑みて考察

すべきものと思われる、本号の Ralph の論考の 1 章に、Gustaf III 世（在位 1771-1792）が 1786 年にスウェーデン・アカデミー創設に際して、自ら認めた設立趣意書の中に、SAOB の編纂のきっかけともなる言葉が紹介されている。それは、スウェーデン・アカデミーの最重要任務は当時のスウェーデン語を《renhet, styrka och höghet》〈純粋さ、活力そして崇高さ〉の精神のもとに整備することと定めた。その主旨は海外においてスウェーデン語の名声が無ければ、スウェーデン語の名譽も無し、ゆえにスウェーデン語を確固としたものに定めねば、スウェーデン語の名声は不可能なり、スウェーデン語で著す偉大な作家がいなければ、スウェーデン語は知られず、確固とした言葉（スウェーデン語）の規則がなければ、良い言葉で書き留められない、ということであった。国王の意向は、わかりやすくいえば、スウェーデンを取り巻く世界の人々がスウェーデン語で書かれた内容を理解してみたい、スウェーデン語は素晴らしい言語だという気持ちを持ってもらえるような、そして価値ある著作をスウェーデン人が書けるようになってほしいということを願ったことである。それはスウェーデン臣民が精神的な創作活動で何を発揮できるのかを示すことによって海外でスウェーデンへ尊敬の念を醸し出すことにあったと Ralph は解説している。これを受けて SAOB の編纂が着手されたわけであるが、SAOB は現在も編纂中であることから、当然国王の趣意は今でも引き継がれており、その趣意から判断すれば、辞書編纂の究極の目的はスウェーデン人自身のためであることは明らかであろう。とすれば、当然ながら一般に無料で公開されるというところに行き着くことになる。

スウェーデン・アカデミー創設時の国王の考えは、スウェーデン語をまず整備し確固と定めることから出発し、そのために良き辞書を一般に提供し、知的レベルの向上を図りつつ、スウェーデン語を通じてスウェーデン人による優れた著作を生み出し、敷いてはスウェーデンが世界から尊敬の念を持たれることを志す壮大な考えであった。実際にこの基本的な考えは 200 年以上経た現代のスウェーデンでも綿々と引き継がれて揺らぐことはない。

2008 年 5 月に大阪大学外国語学部スウェーデン語専攻とスウェーデン大使館共催の『スウェーデン留学フェア 2008』において Svenska institutet の海外交流構築活動部部長の Wirkkala (2008) は講演で次のように述べていた。他の国からみて一体どのようにしたら自国が知られるようになり、競争力がつくのかという問題提起をしたうえで、"Nation branding"〈国家ブランド〉をキーワードにして、以下のような答えを引き出している。近年のグローバリゼーションの中で、スウェーデンの発展は世界の国々がスウェーデンをどのように理解してくれているのか、スウェーデンが世界の国々といかに強い絆や活発な交流を築いてゆくのかに大きく左右される。つまり、スウェーデンの将来の繁栄は世界がスウェーデンに関

心を抱き、スウェーデン人がどういう国民であるのか、スウェーデンは一体何がオファーできるのかを知ってもらって、はじめて達成できると規定している。言い換えれば、スウェーデンという国のブランド銘の強化である。その意図は、経済的、政治的、文化的な目標を達成させるためには戦略的な交流や相互関係を通じてスウェーデンに対する認識を高め、前向きな環境作りにあるとする。スウェーデンは現在このストラテジーを採っており、さまざまな分野でこの基本大綱が生きており、この戦略を巧みに使いながら、政治面、経済面、文化面でその繁栄を享受している。SAOB などをはじめとする辞書などのサイトをこれほどまでに何の制限も設けずに寛容に提供しているのは、スウェーデンと外国人利用者双方にとってウィンウィンの関係が自然に成立するよう配慮したスウェーデンのこうした長期的スパンに立脚した国策に由来しているのではないかと考えられる。この深慮遠謀の国家戦略を知るとまさに、スウェーデンへの感嘆の念が自ずと醸し出され、スウェーデンの戦略はしっかりと機能し、十分成功していると納得もし、確信もする。さらに言うならば、Svenska institutet が半世紀以上にもわたり海外におけるスウェーデン語教育機関（本学外国語学部スウェーデン語専攻も含めて）に何の見返りを求めず多大な援助を惜しまないのもまた、この平和的戦略の一環である。

このような国家戦略を基盤とするスウェーデンが、スウェーデンから直接情報を求める外国人に対して今後も同じ寛容な姿勢を採り続けることを願っている。

(2013 年 3 月)

参 考 文 献

(特記のない限り外国文献の発行地は Stockholm)

- Ekbo, Sven & Bengt Loman. 1971. *Vägledning till Svenska Akademiens ordbok*. (Skrifter utgivna av Nämnden för svensk språkvård, 32.). Läromedelsförlagen.
- Garlén, Claes. 2003. *Svenska språknämndens uttalsordbok*. Norstedts Ordbok.
- Hannesdóttir, Anna Helga. 2012. "Svensk lexikografi, ordböcker och Internet". 本誌本号.
- Hedelin, Per. 1997. *Norstedts svenska uttalslexikon*. Norstedts Förlag AB.
- 石井米雄(編). 2008. 『世界のことば・辞書の辞典 [ヨーロッパ編]』. 東京:三省堂.
- Lundblad, Carl-Erik. 1992. *Handledning till Svenska Akademiens ordbok*. Norstedts.
- Ralph, Bo. 2012. "Språkhistorien och Svenska Akademiens språkarbete". 本誌本号.
- 清水育男. 1998. 「スウェーデン語史の文献案内」, 『IDUN』13 号. 89-111.
(= Shimizu, Ikuo. "Presentation av referenslitteratur över svensk språkhistoria").

大阪：大阪外国語大学デンマーク語・スウェーデン語研究室.

——. 2002. 『スウェーデン語発音概説』. (= Shimizu, Ikuo. *Om svenskt uttal*). 大阪：大阪外国語大学.

清水育男・當野能之・Johanna Karlsson・梅谷綾. 2010. 『高度外国語教育全国配信システム：スウェーデン語独習コンテンツ スウェーデン語へようこそ』. 大阪大学：世界言語研究センター. (= <http://el.osaka-gaidai.ac.jp/flc/swe/index.html>)

Wirkkala, Monika. 2008. *Meeting Sweden — on Studies in Sweden and the Work of the Swedish Institute*. (=要旨訳『スウェーデンとの出会い―スウェーデン留学と Swedish Institute の活動について―』). [2008 年 5 月 23 日 大阪大学における「スウェーデン留学フェア 2008」の講演]